



小学校 道徳科

15

の疑問

vol.1
疑問1~3

岡山市立大野小学校校長 深井 守



ねらいの設定が不十分だと指摘されてしまいました。



教材は子どもに順番に読ませています、ダメでしょうか。



「どんな気持ちでしょう。」という発問では、深まらないんですが……。

本資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。

日文の実践事例、教科情報

詳しくはWebへ!

平成30年度から「特別の教科 道徳」が本格実施されました。それに伴ってちまたでは、「問題解決的な学習」がどうだ、「体験的な学習」がどうだなどと騒がれています。そして、「評価はどうするの?」という話題で持ちきりです。ところが、肝心の日々の道徳科の授業は自信をもって行われているのでしょうか。

私は立場上、道徳科の授業を拝見する機会が多くあります。公開授業の後の協議会にも参加させていただいています。その際、若い教師のみなさんから、さまざまな疑問や悩みが寄せられることがあります。教科書どおりやっているけれど、何だか授業がうまくいっていない気がする、こんなモヤモヤした悩みにきっと共感できるものがあるのではないのでしょうか。

そこで、これらの疑問や悩みに私なりにお答えしていこうと考えました。ただし、私の実践してきたものをもとにお答えするのですから、すべてが正しいわけではないかもしれません。『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』には、そんなこと書いていませんよというものもあると思います。あくまで私からのアドバイスです。そこは、賢く取捨選択してください。そして、活用できそうな部分だけ、活用してくだされば幸いです。

岡山市立大野小学校校長 深井 守

～お知らせ～

深井先生による「ここが知りたい 小学校道徳科 15の疑問」は、5回に分けてお届けいたします。vol.2は、2019年4月に発行予定です。

ここが知りたい
小学校道徳科15の疑問 vol.1

日文 教授用資料
平成31年(2019年)2月28日発行

編集・発行人 佐々木秀樹

発行所 日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261

本資料は平成30年(2018年)度版小学校道徳科内容解説資料として扱われます。本書の無断転載・複製を禁じます。

CD 33450

日本文教出版 株式会社
<http://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171
東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618
九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938
東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵1-13-18-7F-B
TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261
北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690

未来をになう子どもたちへ
日本文教出版



すぎはら ちうね
杉原千畝 (1900～1986年)

杉原千畝さんの写真を提示したり、当時のユダヤ人が置かれていた状況を解説したりします。世界地図でリトアニアの位置を示す必要もあるでしょう。こちらは、心のベンチの『「命のビザ」で、今もつながる多くの命』に掲載されているので、そのページを活用しましょう。



『小学道徳 生きる力 6』P.102・103

この場合のめあては、「杉原千畝さんの生き方について考えよう。」などとするのがよいと考えます。

めあてについて道徳科で配慮したいのは、「どう行動したらよいか」というようなめあては、不適切だということです。なぜなら道徳科では、行動について議論するわけではありません。行動を支える気持ちや考え、価値観について議論するのでから。

道徳科のねらいを設定するのは、教師です。学習課題としてめあてをつかむのは、子どもです。教師は、「何について考え、何に気付かせたいか。」というねらいを明確に設定して授業に臨む必要があります。そうすれば、子どももめあてをはっきりつかむことができます。

でも、深まりのない上滑りの授業になってしまいます。それは、教師が何に気付かせたいかを明確に意識していないからです。子どもにとっても、ねらいが不十分な授業は何だか曖昧で楽しくありません。新しく気付くことや、なるほどと納得するようなことが何もないからです。それこそ、わかりきったことを言わせたり書かせたりする授業になってしまいます。内容項目と教材と児童の実態から、明確なねらいを設定して授業に臨みましょう。

2 ねらいに応じた導入を

ねらいに関連して、導入の役割や方法についても触れておきましょう。

導入の役割は、価値への方向付けです。子どもに「今日はこんなことについて考えるのだな。」という構えをもたせることです。大きく分けて二通りの導入の方法があります。

その一つは、本時の主題にかかわる問題意識をもたせる導入です。私は、道徳科でもめあてが必要だと考えています。単に「親切について考えよう。」というのがあります。ただ、子どもたちの生活を少し振り返って、「仲のよい人には親切にできるけど、他の人にはあまりできないな。」ということ。「みんなもこういうことってあるよね。じゃあ今日はどんなめあてで考えていこうか。」というように学級のみなと共有します。「いろいろな人に親切にするために大切な気持ちを見つけよう。」などとすると、より焦点化されためあてになります。「気持ち」の部分「考え」「心」「ひみつ」などと読み替えてもよいかもしれません。道徳科も「主体的な学び」でなくてはなりません。子ども自身が問題意識をもって学ぶようにする必要があります。

もう一つは、教材の内容に興味や関心をもたせる導入があります。例えば、6年生の「杉原千畝－大勢の人の命を守った外交官－」(C 公正、公平、社会正義)では、



ねらいの設定が不十分だと指摘されてしまいました。

校内で道徳科の公開授業をすることになり、指導案を作成して見ていただきました。2年生の個性の伸長で「自分の特徴に気付こうとする態度を養う」というねらいにしました。ところが、先輩の先生から「ねらいの設定が不十分だね。」と指摘されてしまいました。



1 ねらいはどこから

本時のねらいは、三つの要素から決まります。一つめは、内容項目。二つめは、教材。三つめは、児童の実態です。この三つから、「何について考えさせ、何に気付かせたいか」が決まるのです。ですから、内容項目をそのままねらいにもってくるのでは、ねらいの設定が不十分だということです。



本時のねらい

まずは、『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編』をしっかりと読みましょう。発達段階によるポイントも示されているので、指導する学年が低学年だとしても、中学年、高学年とどのようにしながら発展していくのかも読んでおきましょう。

例えば、「A 個性の伸長」は次のように示されています。

- [第1学年及び第2学年] 自分の特徴に気付くこと。
- [第3学年及び第4学年] 自分の特徴に気付く、長所を伸ばすこと。
- [第5学年及び第6学年] 自分の特徴を知って、短所を改め長所を伸ばすこと。

このことから、低学年では自分の特徴に気付けばよいと考えます。中学年では、長所を伸ばすことが加わるんだと考えます。短所を改めることが加わるのは、高学年になってからでよいのだと考えます。

次に、教材の分析です。教材を読んで、「場面ごとのできごと」「登場人物の心の動き」などを表に整理して、道徳的価値との関連について考えます。

例えば、2年生の「いいところ みつけた」(A 個性の伸長)の場合、こんな感じになります。

場面ごとのできごと	登場人物の心の動き
最初のりえさん	自分はおとなしくてあまり人にもめられないと思っている。
雨の日の靴箱で	小さい子の世話をしたけど、誰も気付いてはくれない。
掃除に遅れて	つらい、悲しい、やっぱり誰もわかってくれない。
先生の言葉を聞いて	とてもうれしくなった。先生はわかってくれていたんだ。自分のよいところは小さい子の面倒をよく見る優しさだ。(ここが最も道徳的価値と関連するところ。)

このようにして、内容項目の解説と教材の分析から考えると、本時のねらいは次のように設定できます。

自分のよいところについて考えるなかで、よいところが見つかるとてもうれしい気持ちになることに気付く、もっと見つけようとする態度を養う。

どうでしょうか。ずいぶん明確になったと思いませんか。あとは、これが児童の実態に合っているかどうか検討するわけです。

ねらいの設定が不十分でも、道徳科の授業はできます。



教材は子どもに順番に読ませていますか、ダメでしょうか。

道徳の教材のお話を子どもに読ませています。国語の音読指導の一環として、国語の授業と同じように、席の順に句点がくると交代という約束で読ませていますか、何か問題があるでしょうか。



1 教材提示

道徳の教材提示は、教師の役割です。ですから、教材は教師が読み聞かせましょう。子どもに順番に読ませると、子どもは緊張して自分が読む箇所だけに集中します。すると、教材全体の内容が理解できなくなってしまいます。国語科と違って道徳科では、教材提示は一回勝負です。よくわかるように教師が読み聞かせましょう。

棒読みにならないように、問の取り方や抑揚に気をつけながら読み聞かせましょう。会話の文はその人物になりきって、教師も役者になりましょう。恥ずかしがってはいけません。

低学年なら、紙芝居やペープサートにするのもよいでしょう。DVDなどの視聴覚教材があればそれも有効です。デジタルコンテンツもおおいに活用しましょう。



2 登場人物やあらすじの紹介

教材を読み聞かせる前に、登場人物を紹介しておきましょう。教科書にも主な登場人物のイラストが並んでいます。同じものを拡大して黒板に貼りながら紹介しましょう。名前だけでなくその人物の特徴にも触れるとよいでしょう。思い切って途中までのあらすじを語って、「さてこの後どうなるのでしょうか。」と疑問をもたせたいうえで、教材文を最初から読み聞かせることもできます。

例えば、3年生の「ぼくのボールだ」(C 公正、公平、社会正義)の場合、まず、黒板に顔の絵を張りながら「ぼく」と、「まさ」と、「たかし」と、「たかし」くんを紹介します。そして、まさくんは強いボールを投げることができることを話します。



ぼく



まさと



たかし

教材を読み聞かせたあと、「誰が出てきましたか」「最初にどうしましたか」「次は……」などと、いちいち尋ねる教師がいます。きっと、理解しているかどうか心配なのでしょう。ところがそんなことをしていたら、時間がどんどん過ぎてしまいます。いちばん話し合いたい中心場面にできるだけ時間を割きたいですね。ですから、一回読み聞かせれば、教材の内容がよくわかるようにすることが大切です。

そのためにも、教材を読み聞かせる前に登場人物を紹介し、あらすじを少し説明しておくわけです。

3 いろいろな教材提示

道徳科の教材提示では、発達段階に応じたさまざまな提示の仕方があります。特に低学年では、文字だけの教材提示より、視覚的な教材提示を伴う方が理解しやすい傾向があるようです。

●紙芝居

紙芝居で教材提示する場合、子どもを教師の周りに集めて座らせるのもよいでしょう。全員によく見えるように、よく聞こえるようにするためです。紙芝居枠も活用してみましょう。枠を活用するだけで、特別感が演出され、子どもはわくわくしますよ。



●ペープサート

ペープサートを活用するのも楽しいものです。例えば、1年生の「ゆっきと やっち」(B 友情、信頼)は、教材としてはペープサートに適していると思います。

みつばちの絵を描いて切り抜き、棒を貼り付けます。棒は、割り箸、竹ひご、ストロー、アイスクャンディの棒などが使えます。竹ひごは、軽くてよいのですが、セロハンテープでとめる際、安定しません。2箇所以上しっかりとめましょう。それに比べてアイスクャンディの棒は、ぴったり貼り付いて安定しますが、短いのが難点

です。それぞれの特徴を知ったうえで活用しましょう。裏には、後ろ姿を描くのが普通ですが、別の表情にするなどの工夫をすると、とてもおもしろいです。



「ゆっきと やっち」の場合、表は両方笑顔で、やっちの裏は苦しそうな表情に、ゆっきの裏は心配そうな表情にするとよいでしょう。競争の最初は、両方笑顔で、途中でひっくり返して、苦しそうな表情と心配そうな表情にします。最後は、また両方笑顔にします。

道徳科の教材提示の役割は、子どもをお話の中に引き込み、登場人物に自我関与させるということです。そのためのいろいろな工夫は、他にもあります。音声や音楽の効果を生かす工夫やビデオなどの映像を生かす工夫、情報機器を活用する工夫などです。

ただし、多くの情報を提示することが、必ずしも効果的だとは言えません。精選した情報をもとに想像を膨らませ、思考を深めることも大切です。

疑問 3

「どんな気持ちでしょう。」という発問では、深まらないんですが……。

指導案どおりに、「どんな気持ちでしょう。」と発問しても、子供から思ったような反応が返ってこないことがあります。深まらない授業になってしまいます。「心情理解にとどまってはいけない。」と思うのですが、どのようにしたら深めることができるのでしょうか。



1 発問提示の心がまえ

発問にもいろいろありますが、ここでは、展開前段に教材を読んで考える際の発問を中心に考えていきましょう。いわゆる中心発問や基本発問です。

子どもは、教材の登場人物の気持ちを尋ねられても、どの場面の誰の気持ちかがはっきりしないと考えるにくいものです。まず、場面絵を提示します。場面絵は片手で持たず、どの子どもにもよく見えるように両手でしっかりと持ちます。そして、場面設定や登場人物の置かれた状況を具体的に解説しましょう。そのうえで、発問をします。



発問は、教卓のところに立ち止まって、ゆっくり丁寧に提示します。場面絵を黒板に貼ったり、発問を板書したりします。「〇〇したときの気持ち」などと、フラッシュカードでキーワードを示すのもよいでしょう。早口になったり声小さかったりすると聞き取りにくいので、言い直しはしません。言い直すことで、微妙に違いが出ることもあるからです。

例えば、「主人公は、どんな気持ちでしょう。どんなことを考えていたのかな。」という発問をしてみましょう。ここでは、主人公がある行為をしているときの気持ちを尋ねているのか、その行為をする前までに考えていたことを尋ねているのか、はっきりしなくなります。ほんの小さなことですが、その小さなことから、ねらいからそれしてしまうということがあるのです。

2 発問をどのように作るか

2年生の、「ぼんたとかんた」(A 善悪の判断, 自律, 自由と責任)で考えてみましょう。教材の内容は次のようです。

仲よしのぼんたとかんたが遊んでいるとき、行ってはいけないと約束している裏山に行こうとかんたに誘われます。ぼんたは迷いますが、「ぼくは、行かないよ。」とはっきり断ります。その結果、かんたも裏山に行くのはやめて、二人で一緒にぶらんこで遊びました。

ねらいは、よいと思うことを進んで行おうとする心情を育てることです。この場合は、友達の悪い誘いをはっきりと断って約束を守ると、はれはれとした気持ちになることに気付かせる必要があります。この場合の「よいと思うこと」は、危ない場所に行かないという約束を守ることです。

そこで、「ぼくは、行かないよ。」と言った場面に焦点を当てます。次の三つの発問を考えてみました。

発問1 「ぼくは、行かないよ。」と言ったとき、ぼんたはどんな気持ちでしょう。

発問2 「ぼくは、行かないよ。」と言ったのは、ぼんたがどんなことを考えたからでしょう。

発問3 「ぼくは、行かないよ。」と大きな声で言ったとき、ぼんたはどんな気持ちになったでしょう。

発問1だと、あぶないから、行かないという気持ちくらいです。

発問2だと、しばらく考えていた間の迷う気持ちがかめまします。楽しそうだから裏山に行きたいという気持ちと、やっぱり行かないという気持ちです。行かない理由には、しかられたくないからや約束は守らないといけなから、危ないことはしてはいけないからなどが考えられます。

発問3は、かんたがさっさと裏山に入っていったという状況や、裏山に向かってとても大きな声で言ったという状況をふまえています。そして、言った後どんな気持ちになったかを尋ねているので、友達の誘いを断って約束を守ることができた、はれはれとした気持ちに気付くことができる発問です。

微妙な違いですが、ねらいとつないで発問を吟味することが大切です。

3 切り返して深める

さらに深めるためには、切り返しの発問を用意しておきます。2年生の「おじさんからの手紙」(C 規則の尊重)で考えてみましょう。教材の内容は次のようです。

さくら小学校のみんなは、電車に乗って遠足に行ったとき、同じ電車に乗っていたおじさんから、「その日、一日、なんとなくゆかいました。」と書いた手紙をもらいました。

ねらいは、約束やきまりを守ろうとする態度を養うことです。そのためには、公共の乗り物での約束を守ることが周りの人をとてもよい気持ちにさせることに気付かせる必要があります。

そこで、おじさんからの手紙をもらった場面に焦点を当てて、次のように発問します。

発問1 おじさんから手紙をもらって、さくら小学校のみんなはどんな気持ちでしょう。

- ・うれしい気持ち。
- ・とてもいい気持ち。

ここでは、まだ不十分なので、次のように切り返しの発問をします。

発問2 どんなことがうれしいのですか。

- ・手紙をもらったことがうれしい。
- ・おじさんにほめられたことがうれしい。
- ・電車の中のきまりが守れたことがうれしい。

さらに、次のような切り返しの発問もできます。

発問3 うれしい気持ちになったのは、おじさんだけですか。

- ・手紙をもらったさくら小学校のみんながうれしい。
- ・電車に乗っていた他の人もうれしい。

ここまでくると、ねらいに迫ってきたな、深まったなと思いませんか。